

令和3年6月15日発行

RIKKO SEKAI No.1085 力行世界 令和3年6月15日発行 (1)

2021年

6月号

年4回発行(1. 4. 7. 10月号)

No.1085

(学)日本力行会

力行世界

R I K K O S E K A I



このようなコロナ禍でも、今年も変わらず満開となった力行会の桜たち

創立1897年1月1日



目次

コロナ禍における力行会について 2・3	各国及び各団体からの年賀状.....7
りっこう幼稚園だより..... 4・5	力行会所蔵貴重資料修復・復刻作業 7
りっこう学童クラブ..... 5・6	力行だより、会費お願い.....8

コロナ禍における力行会について

昨年1月末より、世界中を驚愕とあらゆる活動を停止させ、人や物の動きも停滞、今年になってようやくワクチン接種にこぎ着けたものの、今なおその猛威が衰えない、コロナウイルスについても様々影響を受けると共に、今なおコロナ前の状況までには回復していません。

2020年4月に発令された、緊急事態宣言において、全国の学校や幼稚園は一時休校や休園措置を求められる反面、その子供たちの受け皿としての「認定こども園」や「学童保育」については、むしろ必要以上の受け入れ体制を迫られ、むしろ、それぞれの場所で子供たちが密となり、コロナ集団感染源になるのではないかと心配したが、幸いにも教職員の並々ならぬご努力により、今日まで一人の感染者も出すことなく運営できたことに深く敬意を表したいと思います。

また、多くの留学生を収容している力行会館においては、昨年4月時点で当初は80名余りの各国からの新規入館者を予定していましたが、コロナウイルス感染拡大により、日本政府から

新規入国ビザの発給が見送られたため、ほぼすべての新規入国予定の留学生は日本への入国を果たされず、やむなく、会館入館もキャンセルされ、この状態は今も変わっていません。また、奇跡的に入国できた留学生や、すでに在館している会館生たちにおいても、在籍する学校への建物内への入館が禁止され、ようやく昨年のゴールデンウィーク明けから、オンラインでの授業が開始されることとなるが、やはりネット環境不備や直接教室で授業が受けられないことからの不満やストレスが問題となり、せっかくの留学期間もオンライン授業のみで留学期間が終了した学生などに至っては、全く、留学する本来の意義すら果たせず、涙ながら帰国した留学生が多数いたのも事実です。

事務所としても、会館生の安全を確保すべく、当時コロナウイルスが爆発的に拡大していた中国で活躍する元会館生からのアドバイスから、玄関口にアルコールマット設置、各自にアルコール消毒液無料配布や毎日の検温実施などを心がけると共に、少しでも安寧に会館での生活を送ってもらうよう

に様々対応を行ってきました。

今回のコロナウイルス感染のように、ほぼ一世紀前にスペイン風邪が世界的に感染爆発があり、収束までには3年以上の月日を必要としました。先日、当時の当会機関紙「力行世界」を調べてみたところ、永田2代目会長もこのスペイン風邪に感染した記述があり、ある意味、誰にでも今回の感染症も患う可能性のあるものと認識した上で普段の行動をする必要があるのではないかと感じました。

いずれにしても、今なお現在進行形中であるコロナウイルスの感染下、読者の皆様の健康をお祈りし、一刻も早くこの暗黒から抜け出して、以前のような普通に世界を往来できる時が訪れることを編集部一同祈念しております。

なお、今回のような特別な時間を読者の皆様と共有するに当たり、当会設立理念を皆さんと再度認識を深めるために、当会の歴史を振り返る論文を掲載することとします。

掲載論文については、出版社及び執筆者よりご快諾を得ましたこと、紙上をお借りして御礼申し上げます。

島貫兵太夫の履歴と日本力行会の設立

「キリスト青年たちの移民運動 (三)」—近代日本における労働会の系譜—より抜粋
大熊智之著 (キリスト教文化 2019年 vol.14 より)

まず日本力行会を立ち上げるまでの島貫の履歴を確認しておこう。島貫兵太夫は、1866年、土族島貫寛治の長男として現在の宮城県岩沼市に生まれた。幼いころは父の方針により、産科の助手をしながら漢学を学んでいたが、数え年の14歳で親の反対を振り切り小学校に入学、猛勉強のすえ小学校の助教となった。島貫がキリスト教を学んだのは、1885年、岩沼小学校で訓導を務めていたときであった。同僚のなかに熱心なキリスト教信者があり、彼は「耶蘇は国賊」と聞いていたためその信者をいじめていた。し

かしキリスト教について何らかの知識を持っていたわけではなく、皆が国賊だというから、単純にそう考えていただけであった。そのことを指摘された島貫は、「悪いところを見出して国外に放逐してやらう」との考えからキリスト教について熱心に研究したところ、かえってまったく感心してしまい、仙台に赴いて押川から洗礼を受け信者となった¹。

伝道のためにアメリカで本格的にキリスト教を研究してみたいと思い始めていたが、次のような経緯で1886年創設当時の仙台神学校 (のちの東北学院) に入

学することになった。

其頃のこと (明治19年) ホーイといふ亜米利加人が仙台に来て、神学校を起すから是非最初の神学生となって基督教を研究せよと岩沼の伝道師菅田氏が言ってくれた、6ヶ月で其処を卒業すると伝道師になれると言ふことであった、6ヶ月はどうだか何にせよ基督教を根本的に研究する事が出来るならばわざわざ米国まで行く必要はないと、そこで其の神学校とかいふものに這入ることに決定してしまった²。

彼はその後、より困難な者のために尽くしたいと考え、貧民伝道を決心し実践した。東北学院時代に彼が行った貧民伝道の試みは東北救世軍の組織と、朝鮮伝

道である。

東北救世軍とはイギリスの救世軍にならって、東北各地の貧民に伝道するための組織である。参加者を募って春休みに実行された³。『福音新報』誌はその様子を次のように伝えている。

東北学院神学生島貫兵太夫氏は……一団結を組織し之を救世軍と称し東北に於ける岩沼中村福島飯坂若松米沢山形等を巡視し説教訪問質疑其他我党の主義を拡張するに必要な手段を尽くして伝道界を振起せしめんと決定せられたり⁴

東北救世軍は軍隊を模した組織で、「必要な銭の外は一厘をも携へざること」「汽車人力車等には決して乗らざること」「山野寂寞の地に於て露宿するの覚悟と用意あること」「如何なる艱難辛苦に遇ふも意とせざること」などを行軍規として定めていた⁵。各地の学校や貧民を訪問し、貧民学校を開設して貧しい子らに教育を施したり、祈祷会・演説会・説教会を開くなどのかたちで伝道にあたった⁶。なお、東北救世軍は東北学院からは非公認の活動として実施されたものであり、押川がこの活動をどのように評価していたのかはつまびらかではない。出発前夜、晩餐会に臨席した押川は送別の辞を述べているものの、学校が始まるまでには必ず帰ってくることを学生たちに固く約束させた⁷。課程外の活動により学業がおろそかになるくらいならやめるべきだとの考えからであった。副校長のホーイは、島貫がロンドンの救世軍のブースに手紙を出しその返事が届いたことを知ると、「我派は我派で救世軍は救世軍でまったく別である、そういふものに関係してはいけな」と大いに叱ったという⁸。

同じ年の夏休み、島貫は朝鮮にも渡っている。全国および朝鮮の貧民状態を東北救世軍のメンバーで手分けして調査して伝道策を確立することになり、彼が朝鮮を担当したためであった。仁川から上陸し、35日間におよぶ朝鮮滞在のあいた、アメリカの宣教師らとともに集会を催し中国人や朝鮮人、在朝鮮日本人らへの伝道を行ったという。朝鮮から『福音新報』誌にあてた最初の報告で彼は次のように記している。

日本居留地だけはドウカコウカ不潔ならざるも朝鮮居民の家屋は実に不潔々々。其時情を刺激せしは萬事の不潔其一なり怠惰其二なり貧賤其三なり飲酒其四なり……至る処腰打ち掛けて

悠々然として空を眺めつゝあるを見る。……彼らの精神上靈魂上の有様推して知るべきかと存じ申候⁹。こうして彼は伝道によって救うべき対象として朝鮮社会を見出した。

朝鮮視察旅行から帰国した彼は各地から戻った仲間たちと合流し、互いに報告しあって「此の時日本否東洋には貧民の多いことをつくづく感じた」。そして伝道につとめようとする者はこの事実についての認識と同情がなければならない、と考えるに至った。この東洋伝道を行うにあたってはまずは救貧民問題を解決する必要がある。島貫はそう考え、その思いが力行会をはじめの動機となったと述懐している¹⁰。

東北学院普通科を卒業後、いったんは東洋の救貧事業にとりかがるため上京を計画したが、押川やホーイからなお学校で学ぶことを勧められ断念した。進学した神学部で3年間学び、「東洋伝道と救貧問題」の卒業論文を完成させて卒業すると、いよいよ救貧事業をはじめための準備にとりかかった。仙台の外国人宣教師らに貧民学校を開く相談をしたがまとまらず、彼らに貧民への同情がないと見た島貫は仙台を離れ、東京で救貧事業にとりかかるとした。

上京した島貫がとりかかる具体的な救貧民問題として苦学生の支援を選択したのには、次のような理由があった。

西欧文明の思潮が日夜浸入しつゝある今日思想界に革命の曙光のほの見ゆる時に当っては青年の逆境者程危険なものはないといふ事を其時から考へてみた、此に於て世の苦学生なる者は決して捨てて置くべきものでない先づ何者よりも彼等から救済して行かねばならぬ事を思ひ出した……此急務である救貧事業の一部なる苦学生の救済之れから始めるのが余の使命であると自覚して来たのである¹¹。

ここで島貫が懸念している青年の逆境者が持つ危険性というのは、おそらく社会改良を目指す者を念頭に置いたものだろう。島貫は貧民救済を掲げながらも、そのために現体制を変えようとする社会党や無政府主義に対しては批判的な立場であった¹²。したがって、むしろ若者がそうした考えに至らないためにも、救貧事業の一部としての苦学生支援を始めようと考えたのである。

1897年初め、島貫は苦学生支援の事業に着手することを決意する。富士見町の自宅を開放して苦学生の宿舍とし、「東

京労働会」と称して指導援助をはじめることにしたのである。最初にこの会を訪ねてきたのは北海道出身の南波善之助という青年であった。その後も同じような学生が集まり宿舍が手狭になったので、長屋を借りて運営を続けることになった。

ところで、東京労働会という名称はもちろん彼が東北学院で経験した労働会から名付けられたものであった。彼自身、その意図を次のように説明している。

之は仙台に労働会といふのがあつたので其れに相對して同精神で南北相呼応して天下の苦学生を救ふといふ精神で名づけたのである¹³。

しかし、同じ精神で呼応しながら苦学生を救おうとした彼の意図に反して、東北学院の方からまぎらわしい名称を改めてほしいと申し出があったらしい。そのため東京精勤会と改称した。その後一時期、東京造士会と名乗ったが、加納治五郎の道場と同名であったため、再び改称することになった。こうして日本力行会は誕生した。

- 1 島貫兵太夫『力行会とは何ぞや』警醒社、1911年、26頁。キリスト教に入信しかときの気持ちを島貫は次のように回顧している。「受洗後の第一の安息日を守つた時の心の晴々しさは実に名状すべからざるものであった。実に感謝と希望とに満たされたのである。今も其の日のことは忘れることが出来ない」(同17頁)。
- 2 前掲島貫兵太夫『力行会とは何ぞや』、19頁。
- 3 山室軍平によって日本で救世軍が組織されるのは東北救世軍より後の、1895年のことである。
- 4 「教報」『福音新報』第55号、1892年、4頁。
- 5 「東北救世軍」『福音新報』第54号、1892年、6頁。
- 6 「東北救世軍の近況」『福音新報』第65号、1892年、6頁。
- 7 前掲島貫兵太夫『力行会とは何ぞや』、38頁。
- 8 前掲島貫兵太夫『力行会とは何ぞや』、41頁。
- 9 「在朝鮮嶋貫兵太夫氏」『福音新報』第71号、1892年、4頁。
島貫は朝鮮を蔑視する認識を報告すると同時に、次のように日本人による朝鮮人への露骨な差別的扱いを非難する見解も表している。
実に下劣野卑なるが如し日本人に実に惨酷に虐使せらるゝも唯々として従ふが如し「鼻を曲げて息をつけ」と云ふ様々有様にて御座候。日本人の朝鮮人を侮りて虐使するは水夫の果てまで見ることを得申候。……小生郵便局に至れば局員戸外に熟睡せる水夫(局の小使)を靴にて蹴り起したり生と同じく来局せし朝鮮の一青年局使を一顧して甚だ慷慨の様子に相見え申し小生も此青年と同情を表し申候、如何に無知なる朝鮮なりとて斯くまで無体に取り扱ふは誠に帝国民の威権を落とすことに成んかと思ひ申候。(同箇所)。
- 10 前掲島貫兵太夫『力行会とは何ぞや』、44～45頁。
- 11 前掲島貫兵太夫『力行会とは何ぞや』、65～66頁。
- 12 和田敦彦『『救世』解説』『救世(復刻版)別冊』不二出版、2012年、10頁。
- 13 前掲島貫兵太夫『力行会とは何ぞや』、68頁。

りっこう幼稚園だより



入園式

年少組 寺尾夏枝

4月12日、心地のよい天候のもと幼稚園では入園式を行いました。新型コロナウイルスの感染予防の為、分散で各クラスごとに行いましたが、アットホームな雰囲気の様式となりました。

まだまだ大きな園服にピカピカのバッチを胸に、お家の方に手を引かれながらちょっぴり緊張している表情や、楽しみに待っていたというような笑顔、出会うたくさんの先生たちに「おはよう！」とあいさつをしてくれる元気いっぱいな様子…と、子どもたちは様々な表情を見せてくれました。

入園式は1クラスずつ礼拝堂にて行いました。お家の方の隣に座り、とても

広く感じるこの空間で何が始まるのだろう…と、目をキョロキョロさせていましたが、コアクラスで一緒だった先生とクラスの先生がみんなに見せてくれた劇は、子どもたちにとって少しホッと安心できたひとときとなったように感じました。全体的にもとても落ち着いた入園式となり、最後に記念撮影まで落ち着いて参加



することができました。

今年度りっこう幼稚園に入園した114名の子どもたちが、今この時期にしかできない経験や、友だちが一緒だからこそ味わえる思いをたくさん感じながら、3年間の園生活の中でひとつでも多くの体験を通して、ひと回りもふた回りも大きく頼もしく成長してくれることを願っています。

開園式

プレスクールコアクラス (2歳児) 山崎良美

4月23日、青空の下、令和3年度コアクラス 76組の親子の開園式を行いました。今年もコロナ禍の中での開催となり、密を避ける為、“火・水曜日クラス”と“木・金曜日クラス”の2組に分散して行いました。記念すべき集団生活のスタートの日。分散したことで、親子一組一組としっかり関わることができ、穏やかな雰囲気の中で行えた式となりました。

今年度のコアクラスのメインキャラクターは、小ブタの“プータくん” (大型紙人形)。始まってすぐに登場し、会場を盛り上げてくれました。歌に合わせて、プータくんの鼻が伸びてゾウに変身したり、首が伸びてキリンになったりし、子どもたちの笑顔を引き出し、早速心を掴んだ様でした。プータくんをきっかけに、子どもたちが早く集団生活

や母子分離に慣れてくれるようお願いを込めましたが、どうなることでしょうか…。

他には担任の紹介やハテナBOXの



ゲームをし、あっという間の20分間でしたが、一年の始まりの貴重なひとときとなりました。

今年度も“楽しい”をモットーに、親子一組一組にしっかりと寄り添い、子どもたち一人ひとりの成長のお手伝いをしながら、実りある一年にしていきたいと思っています。



家族参観

ゆり組 大野朝子

5月7日、家族参観を行いました。

この日に向け、子どもたちはお部屋でお家の方の似顔絵を描いたり、『お母さん』の歌を歌ったり、気持ちを膨らませていました。

当日は、お家の方と一緒にお部屋で活動し、ニコニコの笑顔が見られました。お部屋に入ると、「見ててね!」「ここにシールを貼るんだよ!」と得意気にお支度をする頼もしい姿もありました。おあつまりでは「はい!」と元気にお返事をしたり、お家の方の膝の上で笑顔溢れる特別なおあつまりとなったようです。

ももぐみは、キッズ体操を披露して拍手をもらったり、手遊びや触れ合い

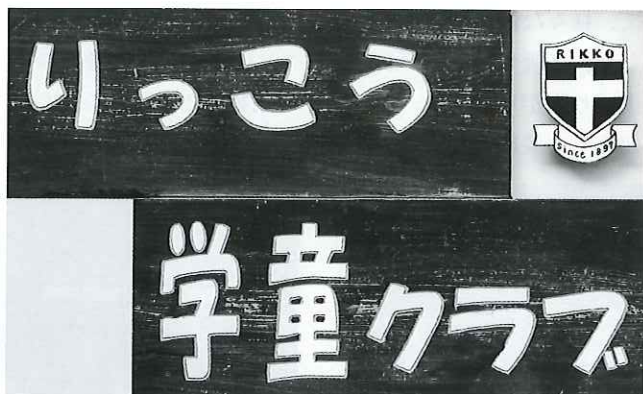
遊びを楽しみ、和やかなひとときを、すみれぐみは、ジェスチャーゲームでモノマネをしたり、考えたり、賑やかなひとときを、

ゆりぐみは、〇×ゲームをして、正解に一喜一憂して盛り上がり、白熱したひとときを過ごしました。

そして、「いつもありがとうございます!」と感謝の気持ちを言葉で伝え、心を込めて描いた似顔絵をプレゼントす

ると、「わあ! 上手だね!」「ありがとう!」とお家の方からも喜びの言葉をもらい、お部屋は愛情で溢れ、温かい空気でもまれていました。

いつも愛情いっぱい温かく見守ってくださっているお家の方に、これからも感謝の気持ちをもって過ごしていけるよう願っています。



プール遊び

園庭プール

昨年の夏はとても暑い日が続いたので外で遊べない日もありました。そんな暑い夏休みに幼稚園にご配慮いただき、幼稚園児が遊び終わった後にプールを貸していただきました。

「プールで遊べるよ! 水着持ってきてね!」という子どもたちから「え! プール? やったー!」と、喜びの声が上がりました。

プールの時間になると子どもたちは急いで準備をします。楽しみにしている気持ちがすごく伝わってきます。

プールに入ると、子どもたちは大盛り上がり。大人がホースで水をかけると、「ちょっと〜やめてよ〜」と言いながら嬉しそうな顔をしていました。終わりの時間になっても「もう終わり? まだ入りたい!」と言うほど気持ち良かったみたいで、良い夏の思い出になりました。



つめたーい

城北公園

昨年度は新型コロナウイルスの影響で公共交通機関を利用した遠足は、練馬区からの指導もあり中止にし、歩いて行ける城北公園に行きました。普段から園庭や地下ホールで体を動かす環境があり、日々楽しく過ごしていますが、城北公園に行って屋外の広い場所で思い切り遊ぶことは子どもたちにとって格別な時間のようなでした。陸上競技場でマラソンをしたり、ドッジボール、ドロケイ、バドミントン、フットサル場を借りてサッカーをするなど、体力が尽

きるまで遊んでいました。「ドロケイやりたい人～」「ドッジボールやりたい人～」と子どもたち同士で声を掛け合い、学年の分け隔てなく仲間を集めて遊んでいる姿がとても印象的でした。

レジャーシートを敷いてみんなでお弁当を食べることも普段味わえない特別な時間になり、遊び終わって歩いて帰るときには、「もうつかれた～」「歩きたくない～」と本音が出てしまうくらい思う存分遊んで楽しい1日になりました。



ボール遊び



バドミントン

卒クラブに向けて

2月の末、3年生8人と1人ずつ面談をしました。学校や友達のこと、たわいもない話をする中、あと1ヶ月あまりの学童での時間、どんなことをして過ごしたいかを聞きました。ドッジボール大会、新聞紙ファッションショー、段ボール工作、大縄大会、てんか、野球の試合等々、3年間過ごした中で、思い出のあるイベントがたくさん出てきました。

開設当初16名だった子どもたちも52名となり、社会の状況が制約されている中でのイベント開催ですが、出来るだけ実現させてあげたいという思いで職員全員が協力体制をとりました。

その日から彼らのやる気は表情や行動にも表れ、日々の生活にも積極的に関わってくれるようになりました。

幼稚園の礼拝堂をお借りしたドッジボール大会では、各チーム上級生主体で作戦を立て、普段ドッジボールにあまり参加しない子にも興味を持てるように声をかけている姿がとても印象的でした。

3年生だけで地下ホールに籠り、1週間かけて作ったお化け屋敷は、職員の想像を上回る出来でした。大きな段

ボールと黒いゴミ袋を使い、ライトや音も利用して、様々な怖がらせる工夫をしていました。下級生の叫ぶ声の外まで聞こえ大盛り上がりでした。そして3年生も誇らしい笑顔でとても満足

していました。

学童クラブが開設されて丸3年経ち、3年間一緒に過ごした子どもたちの成長した姿がたくさん見られた1ヶ月でした。



ドッジボール大会



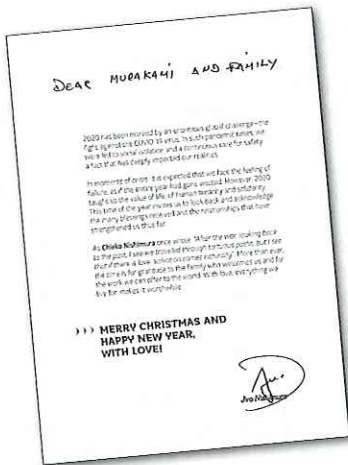
ジャンプボール



お化け屋敷オープン



各国及び各団体からの年賀状



力行会所蔵貴重資料修復・復刻作業

—JICA 横浜と、海外日系人協会の協力で実施中—

当日本力行会資料室には、現在約1万点余りの海外発展移住関連の書籍や新聞、資料等を保存しており、中には、関係者から寄贈された資料も多数保存されています。しかしながら、寄贈頂いた際、すでに倉庫の火災などが原因で一部が消失したり、水などに濡れてカビがついたものも多数あり、それらの修復や保存に悩んでおりました。

この事情を関係する団体に事あるごとに相談をしておりましたところ、昨年秋より JICA 横浜の移民史料館及び海外日系人協会より、すでに当会にしか保管されていない資料より、順次修復及び復刻、公開して頂くことがとりまとまり、さしあたり、第一期分が今年3月完了、現在も継続して作業が実施されています。

原本資料で一部消失したものや、破

れた資料などは、和紙で補強され、見違える姿で当会資料室に戻って参りました。

なお、修復された資料原本は今後は厳重保管対象として、これらの閲覧についてはデータにて後日公開することとなります。

今まで保管のみで一般の方々に目の

触れることのなかったこれらの資料が息吹を吹き返し、多くの方々に目にとまると共に、新たな研究対象となることを期待し、これからも修復作業を継続していく所存であります。

今回のプロジェクト実施にあたっては、関係者の皆様のご支援を心から御礼申し上げます。



人事異動 (令和3年4月1日付)

(役員)

(退任)

(理事) 伊藤政寛 説 寿弘
 (評議員) 角井美穂里 橋 正克 和田敦彦

(新任)

(理事) 角井美穂里 田中直樹
 (評議員) 寺田麻理

(管理職員)

(退任)

伊藤政寛 (事務局長) 説 寿弘 (幼稚園園長)

(新任)

田中直樹 (事務局長) 角井美穂里 (幼稚園園長)
 寺田麻理 (幼稚園副園長)

以上

島貫兵太夫初代会長の墓地清掃管理を
今後は当会にて実施することとなりました

豊島区巣鴨の都立染井霊園内にあ
る、島貫兵太夫初代会長の墓地管理に
ついて、先日来より関係筋と協議をし
ておりましたが、この度、現在墓地

を管理されている責
任者の島貫千帆様と
話し合いを行った結
果、今後は当会にて
定期清掃管理を行う
ことをご快諾頂きま
した。当会は早速、
染井霊園内にある墓
地清掃管理業者に今
後の対応を依頼し、
毎月の墓地清掃と年
二回のお彼岸時期の
献花対応を継続する
こととなりました。
先日、島貫会長のお
墓を確認に伺ったと
ころ、大変きれいに
清掃されておしまし
た。もしよろしけれ
ば、是非とも島貫兵

太夫初代会長のお墓をお参り頂ければ
幸いです(染井霊園内のお墓の位置は、
1種(イ)8号2側2番になります)

(日本力行会 HP より)

日本力行会機関紙「力行世界」
定期購読会員ご加入のお願い

拝啓 春風駘蕩の候 時下益々ご清栄のこと
とお慶び申し上げます。日頃より多大な
ご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

当会はお陰様で創立124年を迎えました。
「日本民族の霊肉救済」を旗印に、苦学生及
び渡米希望者に支援や便宜を与え、さらに
青年の移住斡旋や現地教育にも傾注し、北
米、中南米、東南アジア、旧満州へ約3万人
の移住者を送り出し今日に至っております。

創立80周年には、記念事業として創立理
念をさらに発展させ、“世界と日本の架け
橋となる人材育成”“海外同胞との連携強
化”などの実現を目標に、留学生会館・「国
際交流会館」を新設し、各国からの留学生
を迎え、日常生活を通して日本文化を習得
しながら修学や研究に励めるような環境つ
くりと支援活動を続けて参りました。

ご賢察の通り、今回、世界的に感染爆発を
迎え、今なお収束を迎えていないCOVID-19
ウイルスにより、ひと・モノ共に世界的レ
ベルでの往来が途絶え、当会館に入館予定
であった多くの海外からの留学生の日本入
国が阻まれ、いまなお原状回復が見込め
ない困難な運営状況であると共に、日本に
滞在する会館留学生においても本国の仕
送りが途切れ、アルバイトによる生計も
ままならない危機的な状況を迎えてお
ります。

つきましては、より積極的な国際交流
の継続をご理解頂き、当会活動理解の
為、『日本力行会機関紙「力行世界」
定期購読会員』のご加入を頂きたく
お願い申し上げます。また、ご友人や
国際交流にご関心を抱かれています
方々へのご紹介も合わせてお願いいた
します。

末筆に成りましたが各位の益々のご健
勝と弥栄を祈念いたしております。

敬具

記

『日本力行会機関紙「力行世界」定期購
読会員』制度についてのお知らせ

個人会員 年額一口 ￥3,000円

法人会員 年額一口 ￥20,000円

《口数の制限はございません。会員期間＝
2021年4月1日～2022年3月31日》

(会員特典)

★各種講演会などの行事のご案内

★機関誌「力行世界」のお届け

★ゲストルームの優待宿泊利用(一泊5,000
円を500円引き年間7泊まで)(ご送金方法) 同封の郵便振替用紙をご利
用ください。

以上

令和3年6月15日発行

(学)日本力行会

〒176-0004

東京都練馬区小竹町2-43-12

電話 03-3972-1151(代)

FAX. 03-3972-1264

E-MAIL: rikko@rikkokai.or.jp

ホームページ

http://www.rikkokai.or.jp